

2012.2.2 第8期

本県、養殖生産量全国3位

「資源回復」「価格が高騰」

関係者ら期待と不安

ウナギ絶滅危惧種指定

ニホンウナギが1日、レッドリストの絶滅危惧種に指定された。2011年の養殖ウナギ生産量が全国3位となり深い本県。うなぎ店や養殖関係者らは「資源回復のためなら仕方ない」と受け入れたが、「もし規制が強化されれば、価格高騰につながる」と不安も口にした。

農林水産省の統計によると、本県の養殖ウナギ生産量は11年、4090トで全国3位。一方で天然ウナギ漁獲量は統計を始めた直後の昭和30年代が100ト前後だったのに対し、6トにまで落ち込んだ。県水産政策課によると、養殖

に必要な稚魚・シラスウナギの漁獲量も減少しており、ピークだった1994年度の2470トから11年度は251トに激減。今シーズンはさらに下回るペースで推移している。

こうした状況から、県内河



価格高騰への不安の声も上がるウナギ＝1日午後、宮崎市和知川原1丁目「うなぎ一力本舗」

県内のシラスウナギ漁獲量と平均価格



レッドリストに取引や漁を規制する法的拘束力はないものの、うなぎ店や養殖業者には不安も広がる。「保護の機運が高まって漁獲量が規制されれば、経営はさらに厳しくなる」。40年以上続くうなぎ店「うなぎ一力本舗」(宮崎市和知川原1丁目)の長谷一海社長(64)は、絶滅危惧種指定には理解を示しつつも、価

川の漁業調整を行う県内水面漁場管理委員会では昨年12月、産卵のため海へ下る10〜12月、成魚の漁を禁止する委員会指示を、都道府県単位では全国で初めて決定。同課は「レッドリストによって他県でも取り組みが広がれば、資源回復につながる」と期待する。

県内水面漁業協同組合連合会は昨年3月、自主的に10月から翌年3月までの半年間、成魚を全面禁漁としており、長瀬二己会長は「絶滅危惧種指定による漁への影響はない。資源回復のために中国や台湾なども含めた国レベルの対策も必要になってくる」と話した。

養鰻(ようまん)業者でつくる県シラスウナギ協議会の高木政利会長も「シラスウナギ漁規制につながれば、業界にとつては大変なこと。資源量が回復すればいいが、何年かかるようなら廃業するところも出てくるだろう」と懸念。「外来種の安全性や養殖技術の研究も必要になってくるかもしれない」と対策の必要性を語った。

価格高騰を心配する。仕入れ価格は4年前の2倍ほどに上がつており、昨年は「土用丑(うし)」の看板を控えたといひ「今年も出せないかも」と漏らした。